

噴火、 そのとき私たちは…

体の芯まで響いてくる地鳴りや突然起こる爆発音。空振*で折れ曲がる窓枠、粉々に割れる窓ガラス。空高く立ち上る灰色の噴煙は風下のまちを覆い、火山噴出物をまき散らしました。

噴火を繰り返してきた霧島山ですが、この噴火は今の時代を生きる私たちに突然訪れた火山の驚異でした。

それぞれの立場、それぞれの場所でこの噴火を体験した霧島市民に話を聞きました。

※噴火により発生した空気の急激な圧力変化がもたらす振動のこと

灰色の噴煙が大量に噴出される様子[2011.1.27(12:14)/牧園町新湯から]

身近な霧島山の驚異を実感

一般財団法人自然公園財団高千穂河原支部
副所長

しゅうぎょう
修行美千穂さん(61)



員で避難しました。車までの数メートルは本
当に恐ろしく、洋服は灰で真っ黒。夢中で車を走らせました。後日、私
たちが避難した数時間後に大粒の火山レキが大量に降ったことを知り、
ぞっとしました。ここで働きだして31年。火山の驚異を実感する体験
でした。雄大な自然とうまく付き合っていくために、安心安全な態勢を
整え、これからも自然の素晴らしさとパワーを伝えていきたいです。

私の勤め先がある高千穂河原は1月26日、新燃岳の噴煙に飲み込ま
れました。その日は朝から噴煙が昇っており、「灰が顔にあたって痛い」
と引き返ってくる登山客もいました。午後になるとさらに大きな噴煙
が上がり、上空があっという間に暗くなりました。噴煙に覆われ、辺り
は真っ暗で何も見えず、おびただしい量の灰が降り注ぐ状態。幸いにも
登山客はおらず、パトロールに出ていた職員の無事を確認後、すぐに全

決死の取材で噴火を伝える

朝日新聞霧島支局
記者

すおはら
周防原孝司さん(60)



1月26日、朝から噴煙を上げていた新燃
岳を取材しようと、牧園からえびの市、小林市、高原町と新燃岳周辺を
車で回っていました。その途中、新燃岳から大量の噴煙。国道223号
はほかの車両も走行していましたが、都城市の御池小学校付近に來た
ときには、上空は黒く覆われていました。噴煙の下に入るなりパタパ
タと車をたたきつける噴石、視界は真っ暗、あっという間に道路に灰

が積もり、スリッパしそうな恐怖。引き返すか、進むか、この噴煙
の下を抜けられるのか…。ほかの新聞社勤務も含めて記者生活約40
年。いろいろな現場で取材しましたが、このときは本当に恐怖を感じ
ました。10分ほど走り、やっと抜け出したときには車は傷だらけ、フ
ロントガラスには8cmほどのひびが入っていました。自然のエネル
ギーの驚異と火山の持つ力を改めて実感した体験でした。

専門家に聞く



火山を知り、学び、 楽しむことは 防災にも通ずる

東京大学名誉教授
火山噴火予知連絡会会長

藤井敏嗣さん

1月26日、27日の噴火とそれ以降のものは様式が違います。前者
は準プリニー式と呼ばれ、マグマが直接火口から噴出し、レーダー観
測によると噴煙の高さが海拔8kmまで達した激しい噴火でした。放出
された軽石はマグマに含まれていた水の成分が気泡となって、穴だら
けの岩石として固まったものです。後者はブルカノ式と呼ばれ、火口
に溜まった溶岩の一部を吹き飛ばす噴火で、硬くて重い溶岩のかけら
を噴出しました。

火山噴火は地下のマグマが地表近くまで来るか、噴出することで
引き起こされます。噴火の規模は放出されたマグマの量で決まります
が、今回の新燃岳の噴火は約5000万tのマグマを放出しました。約
300年前に起きた噴火の5分の1くらいですが、現在、桜島が噴出し
ているマグマの8~10年分くらいを最初の1週間で噴出したことにな
ります。2月1日の噴火では空振で窓ガラスが揺れるという現象が高
知県や愛媛県でも起こりました。高精度の機械で測ると関東でもこ

の時の空振による気圧の変化が観測されています。

今は小康状態を続ける新燃岳ですが、えびの高原の地下10kmくら
いの場所に大量のマグマが溜まっているので、今後も霧島山のどこか
で噴火が起こる可能性は十分あります。新燃岳ばかりでなく、御鉢や
別の場所から噴火が起こることも考えられます。

「火山を知り、学び、楽しむことは防災にも通ずる」。これは私が日ご
ろから言っている言葉です。火山はいつも同じような噴火をするとは
限りません。どんな噴火

の時にどんな危険があ
るのかを知ることで、い
ざという時に慌てず
対処できるようになり
ます。そのためには、静
かな時に火山に近付き、
過去の噴火の痕跡など
を訪れ、火山のことを学
ぶことが大切です。自然
に生かされている私た
ち。雄大な自然とうまく
付き合っていくことは
永遠のテーマかもしれ
ません。



噴煙が風に流されていく様子
[2011.1.27(16:20)/空撮/小林市提供]

営業不振に不安が募る日々

ペンション異人館(霧島田口)経営
入佐真知子さん(58)



1月26日、国分にいた私は、空高く立ち上る噴煙に驚き、慌てて霧島
に戻りました。これまで見たことのない光景に多くの人が外に出て呆然
と霧島山に見入っていました。その夜は一晚中“ゴー”という地響きが続
き、窓はガタガタと音をたて、地下で何かが起こっているという不安に
襲われました。翌日から噴火が続き、2月1日の噴火の空振で窓ガラ
スが1枚割れました。噴火の度に部屋の気圧が変わるようで、タイルの

つぎ目がはがれ、ガタガタになりました。ペン
ションの予約は全く入らなくなり、入っていたものもほぼキャンセル。
降灰のひどい日もあり、いつまで続くかわからない噴火活動に不安が募
りました。ここは別荘地で放送施設もないので、市役所の方と一緒に近
所にチラシを配るなど奔走しました。自然の恐ろしさを知り、防災の重
要性を実感した出来事でした。

一瞬の出来事、空振の恐怖

霧島田口(神宮台)在住

ひろこ
野口洋子さん(76)



2月1日の朝、それまで聞いたことのない、
突き刺さるような音で目が覚めました。慌ててリビングに行くとき窓枠が
折れ曲がり、ガラスが粉々に割れていました。浴室の分厚い窓ガラスも
トイレのガラスも同じように割れており、もしリビングのカーテンを開
けていたら、もし入浴中だったらと思うとぞっとしました。数日前から
の噴火で警戒はしていましたが、空振の恐ろしさを肌身で感じました。

とにかく夢中で避難し、2日間避難所生活。家は住める状態ではなく、2
か月間市営住宅で暮らしました。いつまで続くかわからない噴火活動
に、精神的にも経済的にも不安の日々でした。今は山も落ち着きました
が、日ごろからの備えと情報が必要なことを痛感。今年、自宅に戸別受信
機と家の近くにはモーターサイレンが設置されたので、情報に気を配り
ながら自然と共生していきたいです。